

## NEWS RELEASE

報道関係者各位

2021年4月28日

株式会社ナガセ

東進ハイスクール・東進衛星予備校

## 2021年大学入試 東進生の進学先を調査

# 国公立大進学のカギは早期スタート

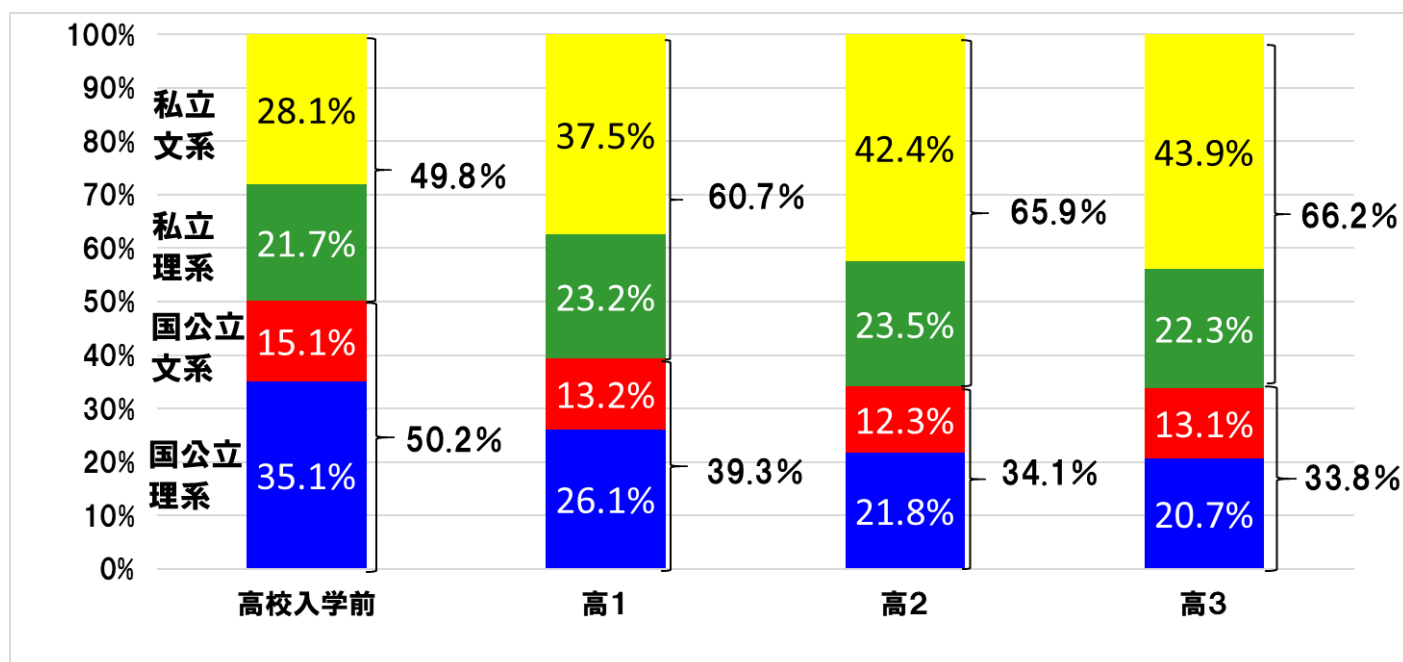
## 高校入学前スタート者の半数以上が国公立大進学

「東進ハイスクール」「東進衛星予備校」を運営する株式会社ナガセは、2021年大学入試における東進生の進学先を調査いたしました。受験勉強スタート時期に着目したところ、早期スタートするほど、国公立大学進学者の割合が高くなることがわかりました。また、東進生の進学先に占める国公立大学の割合は38.4%と、全国平均である20.9%(文部科学省による前年度入試結果)を大きく上回りました。

### 1. 早期スタートで国公立進学者の割合が高まる

グラフ1は、2021年入試における東進生の進学先大学を、国公立理系・国公立文系・私立理系・私立文系の4つに分類し、受験勉強スタート時期(=東進入学時期)別にみたものです。高校入学前スタート者のうち、国公立大に進学した生徒の割合は50.2%と半数以上。一方、高3スタートで国公立大に進学した生徒の割合は33.8%で、全体のおよそ3分の1に留まります。スタート時期が早いほど国公立進学者の割合が多く、私立進学者の割合が少なくなる傾向があります。

特に国公立理系・私立文系で、その傾向が顕著です。高校入学前スタート者のうち国公立理系に進学した生徒は35.1%ですが、スタート時期が遅くなるにつれてその割合は減少。逆に、私立文系はスタート時期が遅くなるにつれて割合が増えていき、高3スタートでは43.9%を占めます。



【グラフ1】 受験勉強スタート時期別 東進生の進学先大学区分(4年制大学進学者)

国公立大学では、一般的に大学入学共通テストで5教科7科目が求められ、必要な科目数が多く対策に時間を要します。さらに、理系は数学Ⅲまで必要なため、当初から理系を視野に入れて学習していなければ、志望することも難しいという側面があります。結果として、受験勉強スタート時期が遅いほど、科目数が少なく、数学が不要な私立文系を選ばざるを得ない状況があるのです。

国公立大学と私立大学を比較すると、大学数・学生数ともに私立大学が圧倒的に多くなっています。一方で、国立大学・公立大学の方が教員一人あたりの学生数が少なく、授業料も学部にかかわらず低く抑えられています。行ける大学に行くのではなく、様々な条件を踏まえて本当に興味のあることを学べる大学を、国公立を含めて選びたいのであれば、対策に十分な時間をかけられるよう、早期スタートすることが重要だといえます。

	大学数	学生数	教員数 (本務)	教員一人 あたり 学生数	授業料	校舎・講堂・ 体育施設 敷地面積	
国立	86	598,881	64,076	9.3	535,800	35.8ヘクタール	
公立	94	158,579	14,090	11.3	536,382	8.4ヘクタール	
私立	615	2,158,145	111,433	19.4	文科系	793,513	7.2ヘクタール
					理科系	1,116,880	
					医歯系	2,867,802	
合計	795	2,915,605	189,599	15.4	-	10.4ヘクタール	

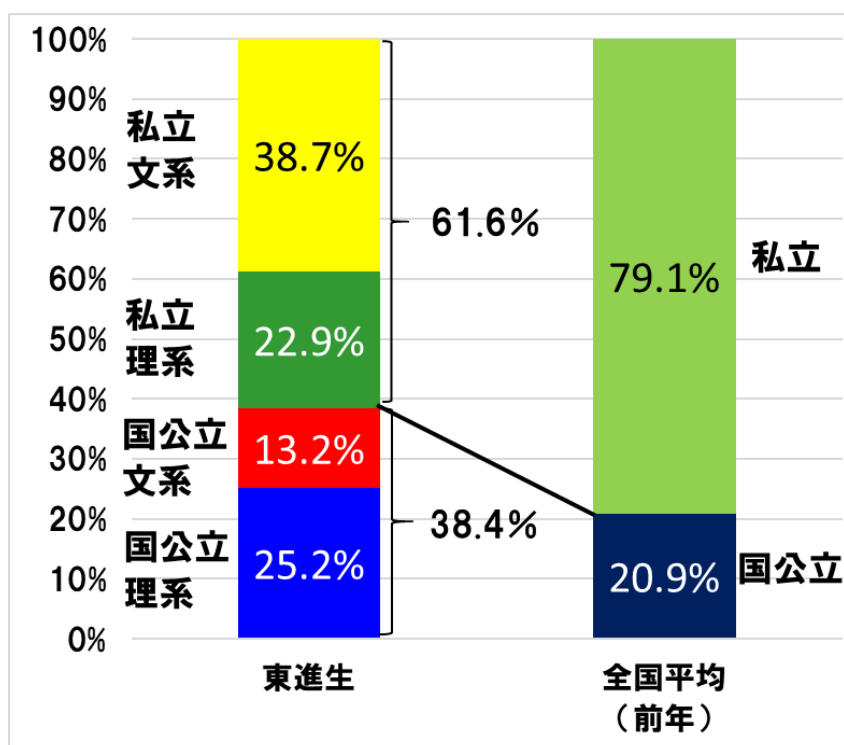
【資料1】 国立大学・公立大学・私立大学の比較

## 2. 東進生の国公立大学進学者の割合は全国平均の1.8倍

グラフ2は、東進生全体の進学先大学区分をまとめたものです。国公立理系が25.2%、国公立文系が13.2%、国公立全体では38.4%となりました。

文部科学省の調査によると、前年度(2020年入試)の4年制大学進学者のうち、国公立大学進学者の割合は20.9%。その数値と比較すると、東進生の国公立大学進学割合は、全国平均の約1.8倍となります。

東進生の進路を見ると、私立が多数派ではあるものの、全国平均と比較すると国公立大学進学割合が高い傾向にあります。



【グラフ2】 東進生の進学先大学区分の全国平均との比較 (4年制大学進学者)

## 【株式会社ナガセについて】

1976年創立。日本最大の民間教育ネットワークを展開するナガセは「独立自尊の社会・世界に貢献する人財」の育成に取り組んでいます。

シェア NO.1 の『予習シリーズ』と最新の AI 学習で中学受験界をリードする「四谷大塚」、有名講師陣と最先端の志望校対策で東大現役合格実績日本一の「東進ハイスクール」「東進衛星予備校」、早期先取り学習で難関大合格を実現する「東進ハイスクール中学部」「東進中学 NET」、総合型・学校推薦型選抜(AO・推薦入試)合格日本一の「早稲田塾」、幼児から英語で学ぶ力を育む「東進こども英語塾」、メガバンク等の多くの企業研修を担う「東進ビジネススクール」、優れた AI 人財の育成を目指す「東進デジタルユニバーシティ」、いつでもどこでもすべての小学生・中学生が最新にして最高の教育を受けられる「東進オンライン学校」など、幼・小・中・高・大・社会人一貫教育体系を構築しています。

また、他の追従を許さない歴代 28 名のオリンピックを輩出する「イトマンスイミングスクール」は、日本初の五輪仕様公認競技用プール「AQIT(アキット)」を活用し、悲願の金メダル獲得を目指します。

学力だけではなく心知体のバランスのとれた「独立自尊の社会・世界に貢献する人財を育成する」ためにナガセの教育ネットワークは、これからも進化を続けます。

【本件に関する報道関係者の方からのお問い合わせ先】

株式会社ナガセ 広報部 担当:市村(いちむら)、海老根(えびね)

TEL:0422-44-9001 Mail:pub@toshin.com